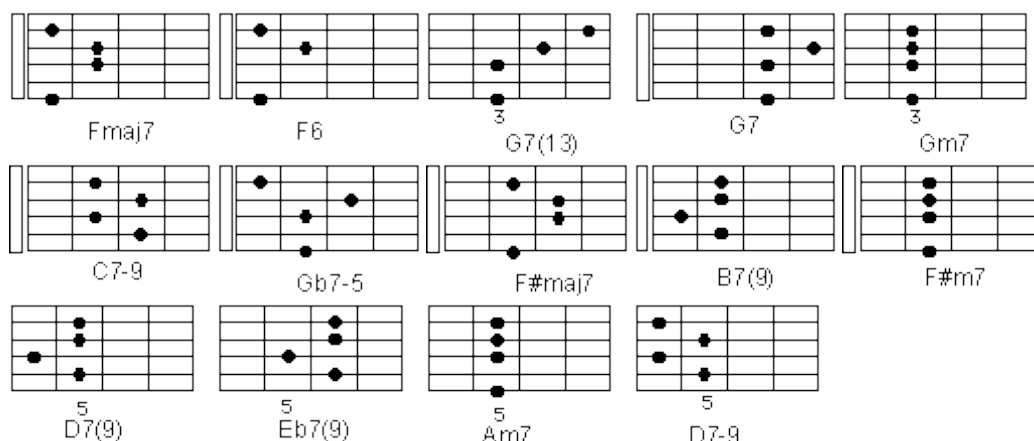


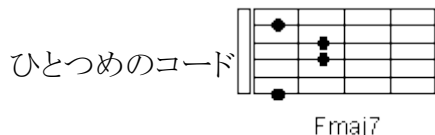
「イパネマの娘」

それでは具体的に「イパネマの娘」を弾いてみましょう。まずこの曲で使う以下のコードを瞬時に押さえられるよう練習してください。



ええっ！いきなり14個もコードを覚えなくてはいけないの？と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、同じ押さえ方でフレットがずれてるだけのものがあるので実質は8個ですね。(例えば Gm7 と F#m7 は全く同じかたちで押さえられるはずです。)これがギターの構造上の利点です。ひとつコードを覚えれば実質的には9個くらいのコードに対応できます。どの弦を何指で押さえるのかは自分で試してください。きっと、こうしか押さえられないというポジションがあるはずですのでここでは省略します。

右手の弾き方



ひとつめのコードを押さえ、次のように弾いてみてください。拍子が 2/4 なのに注意してください。

	1	2	3	4
T	1	1	1	1
A	2	2	2	2
B	2	2	2	2
B	1	1	1	1

なるべく楽譜は使いたくなかったのですが、タイミングだけは楽譜でないと表現しにくいですね。このパターンがボサノヴァの最も基本的なパターンです。まずこのパターンをマスターしてください。親指で6弦の最低音を規則正しい感覚で鳴らし、人指し指、中指、薬指で4、3、2弦を弾きます。

全体のコード進行

それではこの前のパートでマスターしたパターンの弾き方で、全体のコード進行を弾いてみましょう。全てのコード・チェンジを一小節で行って下さい。(そのため2小節連続同じコードのところは、蛇足ですが同じコードを2個並べています。)

コード進行

The following table lists the chords shown in the diagram grid, organized by row and column:

Fmaj7	F6	G7(13)	G7	Gm7
C7-9	Fmaj7	Gb7-5	Fmaj7	F6
G7(13)	G7	Gm7	C7-9	Fmaj7
F6	F#maj7	F#maj7	B7(9)	B7(9)
F#m7	F#m7	5 D7(9)	5 D7(9)	3 Gm7
3 Gm7	5 Eb7(9)	5 Eb7(9)	5 Am7	5 D7-9
3 Gm7	C7-9	Fmaj7	F6	3 G7(13)
G7	3 Gm7	C7-9	Fmaj7	F6

ここまででワン・コーラスです。スムーズにチェンジできるようになるまで練習あるのみ。できるようになったら次に進みましょう。

演奏をボサノヴァっぽくするコツ

ひとつと弾き語れるようになったら、もう一步踏み込んでボサノヴァっぽく聴こえるようにしていきます。

シンコペーションを使う

これはボサノヴァを演奏するうえで避けては通れないものです。ここまでの基本的演奏では一切シンコペーションしていませんでしたが、実際にはシンコペーションの入っていないボサノヴァはありません。具体的に説明しますと次のような演奏のことをいいます。イパネマの娘の最初の2小節をシンコペートしてみると。

このように2小節目に入る前にもう次のコードを押さえます。2、3、4弦を先に突っ込んで弾いておいて、親指はジャストで一拍めを弾く。ジョアン・ジルベルトの演奏を聴くとこの弾き方が多用されているのがわかります。

いろいろな右手のパターンを織り混ぜる

ジョアン・ジルベルトの演奏を聴いていると必ずしも基本パターンだけではない右手の弾き方をしているのがわかります。ここで全てを網羅するのは不可能なのでCD等を聴き込んで、なるべくたくさんのパターンを自分のものにしてください。お薦めはやはりジョアンの演奏です。

自由なヴォーカルライン

これはジョアン・ジルベルト特有の歌い方ですが、ヴォーカルのリズムが必ずしもギターの演奏のリズムと一致しない時があります。極端な時には一小節位先走って歌っています。でも最初はやはりジャストのリズムで歌えるように練習しましょう。

最後に

「イパネマの娘」は弾き語れるようになりましたか？ボサノヴァを弾き語るのは楽しいでしょう？他にもボサノヴァにはたくさんの名曲があります。新しい曲に挑戦するたびごとに発見があり、新たなコードを覚えます。歌うために歌詞を確認してまた違った感動があるかもしれません。